

▽老後の備え

老後の備えを計画的にしっかりとしていくことが大切だと感じますが、皆さんはいかがでしょう？

平成22年12月の「生活保障に関する調査」(生命保険文化センター)によると、回答した人の実に8割を超える人が自分の老後生活に対して不安を感じているとのこと。その理由の多くは経済的なことで、なかでも公的年金に対する不安を挙げる人が、その8割を超えています。

夫婦2人で老後生活を送る上で必要と思われる最低日常生活費の平均額は、月額で22.3万円となっており、これを公的年金でまかなえると考えている人は、全体の15.1%程度であり、反対にまかなえないと思わないと考えている人は、81.3%と8割を超えています。

人気のない公的年金制度ですが、これから準備する老後の生活資金も含めて、どのような手段でまかなっていこうかと考えているのかをみると、「公的年金」が87.2%と最も高く、以下「現預金」が67.9%、「企業年金・退職金」が39.0%、「個人年金保険」が30.7%と、現実的には、まだまだ公的年金の役割は大きいと感じている人が多いようです。

国民年金の場合は満額でも月額6.6万円程度であり、夫婦満額でも13万円程度にしかならず、上記最低日常生活費平均額にあと9万円ほど足りません。

この9万円をどのようにして準備するのも大切ですが、まずは公的年金をきちんと受給できるようにすることが先決であると思います。公的年金は国が運営している制度ですので、保険料が高いという問題はあるにせよ、必ず保障してくれます(国が破たんすれば別ですが、基本的にはそれを前提に生活設計を考えるのはナンセンスだと思えます)。

また、全額所得控除になり税制も優遇されていますので、安くなった税額を利回りと考えれば、かなりいい金融商品だとも考えられます。さらに、公的年金は、老後の年金だけでなく、状況によっては、障害の状態になったときや遺族に対する給付も用意されており、保障も幅広いのです。そして、不足分を民間保険会社の商品等でまかなうといいでしょう。

今、税と社会保障の一体改革が検討されていますが、皆が安心できる制度にしていきたいものですね！

損害保険・生命保険に関する、疑問・質問がございましたら、お気軽にご連絡ください！(スタッフ一同)

(有)不二越総合保険事務所
〒811-2304 福岡県糟屋郡粕屋町
花ヶ浦1-13-20-102
TEL:092-939-5788 FAX:092-939-5799
H/P <http://www.fujikoshi-hoken.jp>
E-mail info@fujikoshi-hoken.jp

月の満ち欠け



6/20(水) 新月
6/27(水) 上弦
7/4(水) 満月
7/11(水) 下弦

ある調査に拠りますと、死亡事故に関しては、新月、満月の時期に集中しているという…。私の長年の代理店経験でも、明らかに自動車事故は新月、満月の日に多いのです。いつにも増して安全運転を。

事故対策 ワンポイントアドバイス

～元満 尚人～



梅雨に突入するこの時期は自動車の運転にいつも以上に注意が必要となります。

降雨時、特に雨の降り始めは道路に付着した土や油が浮き出すことから路面が非常に滑りやすくなり、スリップの危険性が増します。最近よく耳にする「ゲリラ豪雨」のような突発的な豪雨によって水の溜まった路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、車が水の上を滑るようになりハンドルやブレーキが利かなくなる「ハイドロプレーニング現象」を誘発してしまいます。また、水たまりを通過する際にブレーキドラムに水が入り、一時的にブレーキが利かなくなることもありますので、いつもよりもブレーキが利かない・停止距離が長いという意識を持って、出来るだけ前の車との車間距離を空けることを心掛けて下さい。

これらの原因の一つはタイヤの状態です。適正な空気圧に設定するのはもちろん、タイヤの摩耗もスリップしやすさに大きく影響します。

常日頃からの愛車の点検は事故防止に効果的です。今一度皆様の愛車を点検してみてください。

P.S. バッテリーのチェックもお忘れなく。

立ち読み・ななめ読み

★伝える力

著者:池上 彰 840円 出版:PHPビジネス新書

NHK退職後現在はフリージャーナリストとして活躍中の著者が報道記者・アナウンサー時代に感じた言葉を伝える事の難しさを読者に伝授。新入社員向けに最高の本。

★ねこ背は治る！

著者:小池義孝 1,470円 出版:自由国民社

タイトルは「ねこ背」ですが、それよりも私が印象に残ったのは、現代人は「呼吸が浅くなっている」ということです。肺を意識して大きく吸って大きく吐いて。より多くの酸素を体の隅々まで送る。毎日意識的に深呼吸をすることは、健康に様々な素晴らしい効果があるようです。

スタッフの声

～山本千津子～

10年後、自分がどんなふうにご逝去していたいか考えたりします。子育てが一段落した40代半ば、自分の時間を楽しんでいきたいです。この夏、半年休んでいたヨガを再開します。